

3. 視覚障害編

(3) 体験プログラム例

① ブラインドウォーク

ブラインドウォーク(アイマスクをつけた歩行)を行うことで、目の見えないことを体験し、目の不自由な人の身になって考えたり、進んでガイドしたりする態度を身に付けましょう。

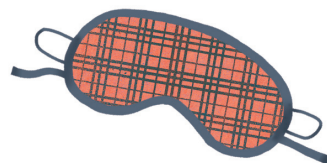
体験のポイント

2人1組になり、1人がガイド役もう1人がアイマスクをつけて歩いてみる。

体験例：いすに座る、立ち上がり動作、机の引き出しから物を取り出す、室内での移動、ドアの開閉、廊下の通行、階段、エレベーター、点字ブロック、段差、公衆電話、自動販売機の利用、道路(歩道の幅・舗装状態・障害物、車道と歩道の違い、音響式信号機の方角・音の大きさ・時間、自動車の騒音)など。

アイマスクのつけ方

雑菌等から目を守るために、ティッシュペーパーやガーゼを内側にあてて使用しましょう。周囲や足下が見えないように、また、ずり落ちたりしないようにしっかり取り付ける。メガネは外してからつけましょう。



目的 目の不自由な人の身になって考え、進んでガイドする態度を身につけよう

場所 教室、玄関から校庭

準備 アイマスク(生徒数の半分)、
ガーゼ・ティッシュ(アイマスクの内側にあてる)

活動内容

活動例

- ①目の不自由な人のためにどんな施設や設備があるか、目の不自由な人がどんな生活用具(白杖、点字器、盲導犬)を使っているかなど、事前に調べて話し合う。
- ②目を閉じて、机の引き出しから教科書やノートを出してみる。
- ③目を閉じて、自分の席から教室の黒板の所まで歩いてみる。
- ④2人組になり、1人がガイドし、もう1人がアイマスクをして、玄関から段差やスロープのある所、フェンス際などを通して校庭を1周して来る。
- ⑤アイマスクをして歩いた時と、ガイドした時の両方の立場から感想を発表しあう。